

攻め口が多彩な真杉匠

大阪・関西万博協賛・玉野競輪場開設74周年記念「瀬戸の王子杯争奪戦」は、3月6日〜9日の日程で開催される。今シリーズは真杉匠、清水裕友、平原康多のS班3名をはじめ松浦悠士、犬伏湧也、吉田拓矢、窓場千加頼、山田庸平ら全国各地から健脚が集結。地元勢は岩津裕介、河端朋之、取鳥雄吾らが一丸となって強豪を迎え撃つ。瀬戸を背に激闘の頂点に立つのは誰なのか？また、最終日第9レースにて、第125期生の精鋭9名により本社杯「ルーキーチャンピオンレース若鷲賞」が一発勝負で争われる。こちらにも目が離せない。

SS班は3名が参戦する。最も動きがいいのは真杉匠だ。1月はあっせんをしない処置のため、今年2月静岡記念からのスタートとなったが、結果は④①①③着。4日間すべて最終バックを取った競走内容は力強く、練習中の落車負傷で1月を棒に振った昨年とは雲泥の差だった。更に2場所目の全日本選抜は①③①着で決勝に進出と大活躍を演じた。初日特選を逃げ切ると、準決は追い上げて近畿ラインを分断して勝ち星をゲット。決勝は正攻法から成り行き先行で結果を出せなかったが、何でもそつなくこなす柔軟性を披露している。優勝に最も近い存在とみた。1月立川記念で落車し、鎖骨を骨折した吉田拓矢ながら、復帰戦の全日本選抜は⑤①④着と決勝進出を果たした。1カ月前のブランクをまったく感じさせない快走を演じた。自力基本の競走だが、ここは全日本選抜の準決、決勝で前を任せた真杉匠に付けての番手戦か。真杉の仕掛け次第では逆転十分だろう。対照的に平原康多は1月大宮記念での落車が尾を引いているのか、本調子にはほど遠い状態だ。さらに2月奈良記念でもゴール後落車している。ここは関東に頼れる自力型があるので、調子が戻ればチャンスがあるが…。



真杉匠

ラインの総合力なら中四国勢も引けを取らない。松浦悠士、清水裕友の中国ゴールデンコンビに、岩津裕介、河端朋之、取鳥雄吾の地元勢。4月からSS班に上がるスピードスター犬伏湧也の存在も心強い。2月静岡記念の準決で落車した松浦だが、全日本選抜ではスタールビー賞にコマを進めていて、影響は感じさせなかった。優勝を狙える状態にある。対照的に清水はスピードの乗りがあまり良くなく、全日本選抜の最終日は、よもやの一般戦回り。肺



犬伏湧也

を痛めたダメージは本人の想定以上でここ出走まで危ぶまれるような情勢だ。地元勢では河端の快速が目につく。1月高松記念では初日特選を含め3勝をあげる。2月静岡記念は決勝3着。全日本選抜でも3日目に連に絡んだ。犬伏は直近4カ月の3連対率は約86%。航続距離が伸びてきた感があり、成績が安定してきた。全日本選抜は準決を乗り切れなかったものの、二次予選はまくり、最終日は逃げ切って2勝を手に入れている。

窓場千加頼、南修二の近畿勢も侮れない。全日本選抜は惜しくも準決4着で優勝を逃がした窓場だが、迫力満点の自力攻撃で好調をアピール。好位置キープして自力を出せれば好勝負に持ち込める。南も出来はいい。全日本選抜では④①③⑥着と優勝して、ベテランながら差し脚に陰りは見られない。窓場の自力攻撃が奏功すれば連に浮上してきそう。

瀬戸を背に 激闘の頂点に立つのは… 俺だ！

大阪・関西万博協賛 玉野競輪開設74周年記念 GIII

瀬戸の王子杯争奪戦

2025年3月6日(木) … 7日(金) … 8日(土) … 9日(日)

サテライト津山 サテライト笠岡 サテライト山陰



松浦悠士

万博協賛 瀬戸の王子杯争奪戦 出場予定選手

※2025年02月28日現在のデータです。

級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点					
SS	平原康多	埼玉	87期	113.53	S1	吉澤純平	茨城	101期	108.54	S2	金成和幸	福島	88期	96.31	S2	塚本大樹	熊本	96期	106.76	S2	古賀勝大	和歌山	115期	97.26
SS	清水裕友	山口	105期	110.94	S1	吉田拓矢	茨城	107期	116.80	S2	佐藤朋也	秋田	89期	93.00	S2	中村健志	熊本	96期	96.06	S2	原井博斗	福岡	115期	103.04
SS	真杉匠	栃木	113期	119.73	S1	取鳥雄吾	岡山	107期	109.24	S2	大澤雄大	埼玉	89期	94.85	S2	中田雄喜	福島	97期	100.17	S2	長屋秀明	岐阜	117期	94.38
S1	志智俊夫	岐阜	70期	106.50	S1	佐々木豪	愛媛	109期	109.21	S2	古屋琢晶	山梨	90期	93.57	S2	小島歩	神奈川	97期	97.80	S2	中島詩音	山梨	119期	97.39
S1	竹内智彦	宮城	84期	108.17	S1	瀬戸栄作	長崎	109期	105.08	S2	村田雅一	兵庫	90期	110.68	S2	稲毛健太	和歌山	97期	101.77	S2	塚本瑠羽	神奈川	119期	88.05
S1	坂本健太郎	福岡	86期	105.45	S1	橋本瑠偉	栃木	113期	104.00	S2	山中貴雄	高知	90期	96.21	S2	田中陽平	熊本	97期	99.88	S2	渡口勝成	山口	119期	102.37
S1	岩津裕介	岡山	87期	108.94	S1	晝田宗一郎	岡山	115期	102.81	S2	宿口潤平	埼玉	91期	103.17	S2	増原正人	広島	98期	95.50	S2	真鍋智寛	愛媛	121期	103.00
S1	大森慶一	北海道	88期	106.86	S1	青野将大	神奈川	117期	108.32	S2	藤田大輔	千葉	91期	95.25	S2	掛水泰範	高知	98期	102.56	S2	梅崎隆介	長崎	121期	99.45
S1	佐藤友和	岩手	88期	108.14	S1	仲野結音	大阪	117期	93.81	S2	小堺浩二	石川	91期	99.22	S2	高橋広大	埼玉	99期	98.33	S2	一丸尚伍	大分	121期	100.65
S1	南修二	大阪	88期	114.74	S1	町田太我	広島	117期	103.31	S2	矢島一弥	群馬	92期	92.04	S2	藤井昭吾	滋賀	99期	102.56	S2	斉藤樂	宮城	123期	95.00
S1	柏野智典	岡山	88期	105.36	S1	佐々木真也	神奈川	117期	110.64	S2	椎木尾拓哉	和歌山	93期	108.04	S2	坂本周輝	青森	100期	98.78	S2	松崎広太	茨城	123期	98.87
S1	内藤秀久	神奈川	89期	104.19	S1	犬伏湧也	徳島	119期	115.58	S2	福島栄一	香川	93期	98.32	S2	神田龍	三重	105期	97.64	S2	山根慶太	岡山	123期	97.12
S1	阿竹智史	徳島	90期	107.48	S2	齊藤竜也	神奈川	73期	96.00	S2	成松春樹	佐賀	93期	99.74	S2	畠木努	岡山	107期	95.60	ルーキーチャンピオン				
S1	小岩大介	大分	90期	111.00	S2	小嶋敬二	石川	74期	94.00	S2	内田玄希	東京	94期	95.10	S2	堀僚介	大阪	109期	92.29	S2	森田一郎	埼玉	125期	101.53
S1	菅田志道	宮城	91期	115.24	S2	児玉慎一郎	香川	76期	98.12	S2	山本奨	岡山	94期	99.82	S2	竹内翼	広島	109期	98.91	S2	阿部英斗	福岡	125期	98.63
S1	根田空史	千葉	94期	106.84	S2	佐藤真一	東京	79期	96.68	S2	星野辰也	栃木	95期	89.35	S2	太田竜馬	徳島	109期	105.06	S2	栗山和樹	岐阜	125期	96.00
S1	山田庸平	佐賀	94期	114.25	S2	萩原孝之	静岡	80期	98.00	S2	武藤篤弘	埼玉	95期	95.81	S2	平尾一晃	長崎	111期	98.90	A2	中石湊	北海道	125期	93.45
S1	小原太樹	神奈川	95期	111.87	S2	宮下貴之	埼玉	81期	90.41	S2	矢口大樹	千葉	95期	92.73	S2	佐々木堅次	福島	113期	97.84	A2	塩島嵩一朗	神奈川	125期	91.81
S1	河端朋之	岡山	95期	110.40	S2	伊勢崎彰大	千葉	81期	99.55	S2	坂口晃輔	三重	95期	105.43	S2	内山雅貴	静岡	113期	97.00	A2	岩井心	岐阜	125期	94.18
S1	佐藤博紀	岩手	96期	100.89	S2	中村良二	福岡	81期	98.51	S2	高間悠平	福井	95期	94.07	S2	上山亮弥	熊本	113期	100.70	A2	谷内健太	京都	125期	88.36
S1	松浦悠士	広島	98期	116.85	S2	肥後尚己	大阪	83期	93.87	S2	高岡悠裕	京都	95期	95.25	S2	照井拓成	岩手	115期	101.76	A2	南部翔大	大阪	125期	92.85
S1	恩田淳平	群馬	100期	108.24	S2	筒井敦史	岡山	85期	102.10	S2	山中秀将	千葉	95期	101.23	S2	小畑勝広	茨城	115期	103.04	A2	遠藤拓巳	香川	125期	92.75
S1	窓場千加頼	京都	100期	112.69	S2	原真司	岐阜	86期	98.85	S2	川津悠輝	北海道	96期	105.28	S2	鈴木薫	東京	115期	104.27					
S1	高久保雄介	京都	100期	105.93	S2	松岡健介	兵庫	87期	100.76	S2	松尾透	福岡	96期	99.06	S2	原田亮太	千葉	115期	97.44					

選手直前インタビュー 俺の出番だ!!



柏野 智典

(岡山/88期)

昨年は8勝にとどまったが、今年はすでに7勝している。F1戦で準Vが3回あるように差し脚の鋭さが目に付くし、コース選択も的確だ。いい状態で迎える地元記念だけに活躍が期待できる。

晝田 宗一郎

(岡山/115期)

着実にステージを上げていて、昨年はダービー、オールスター、寛仁親王牌に初参戦。だが、今年はやや詰めを欠いての2、3着が多い。地元記念で勝ち星をゲットし流れを変えるか。



川津 悠揮 (北海道/96期)

1月大宮記念2②⑤②着。勝ち星こそなかったものの、鋭い伸びを披露して3連対を果たした。その後はF1戦ながら1着が多く、2月松阪は1①②着とオール連対の準V。突っ込みには警戒したい。



椎木尾 拓哉 (和歌山/93期)

今期は9年ぶりに2班に落ちたが、調子はまったく問題ない。1月和歌山記念で決勝に乗ると、2月は岐阜1①③着、松阪1②④着と成績をまとめている。好位置があるレースは連の対象から外せない。



根田 空史 (千葉/94期)

全日本選抜の一次予選は、後手を踏まされて8番手に置かれたが、直線大外を鋭く伸びて2着。スピードには非凡なものがある。ツボにはまった時のカマシ、まくりは破壊力抜群で、一発の魅力を秘めている。

3/9 (最終日) 9R

Rookie Champion Race



阿部英斗を指名も大接戦

好なだけに波乱を巻き起こす怖さを備える。

在所ナンバーワンの遠藤拓巳、特進を懸けて2月川崎で栗山と8連勝対決を演じた塩島嵩一朗、谷内健太、南部翔大の近畿コンビまで大きな脚力差はない。そろって近況良好なだけに波乱を巻き起こす怖さを備える。

一方、真っ先にS級に上がった森田一郎は経験値の高さで本来ならVの最有力候補に挙げられるのだが、腰痛が出て最近は大乱調。その中でも自分を見失わずに行くべきタイミングで行くレースを心掛けてはいるが、肝心の脚力が戻り切らないと厳しいのでは。

S級に特進した3人には遅れを取ったが、中石湊を最上位に評価しても良さそう。他の選手より出走回数が少ないのも影響して未だA級だが、競技で輝かしい成績を残し、ナショナルチームに所属しているようにポテンシャルの高さは他の追随を許さない。単騎でも自分の持ち味を出し切るスケールの大きいレースをできるか。

勝を勝ち取って思い切りの良さを出せば逆転Vは十分。また、同県で岩井志がいるので、連係して番手を回る可能性も高い。若者らしからぬ大胆なレース運びが光る岩井目標ならVへはさらに近づく。

栗山和樹が一番のライバルだろう。2月に特進した栗山は初戦の熊本で早速優勝。準決は格上の飯野祐を叩いて圧勝と持ち前の機動力を遺憾なく発揮した。長い距離を踏める強みを生かして思い切りの良さを出せば逆転Vは十分。また、同県で岩井志がいるので、連係して番手を回る可能性も高い。若者らしからぬ大胆なレース運びが光る岩井目標ならVへはさらに近づく。

S級戦士が3人に、A級1・2班戦で常にVを争っている6人。とにかく勝つことに意味があつてライン戦より個の戦いに重きが置かれる頂上決戦は流れ一つで誰が勝っても不思議ない。本命に最も相応しいのは阿部英斗だ。S級を3場所走ってまだ決勝に乗れていないが、渡邊一にまくられたデビュー戦を除きレースを支配する積極策で別線からの反撃を合わせ切って粘り込むレース内容で評価上昇中。2月小倉で2勝、初のG戦となった小松島MNも3②①着と本人もS級で戦える手応えをつかんだ。こども勝負所を逃さず仕掛けて125期のトップに立つ。



阿部 英斗 (福岡/125期)